



国語・国文
日本書房
東京・西神田
3261-2744

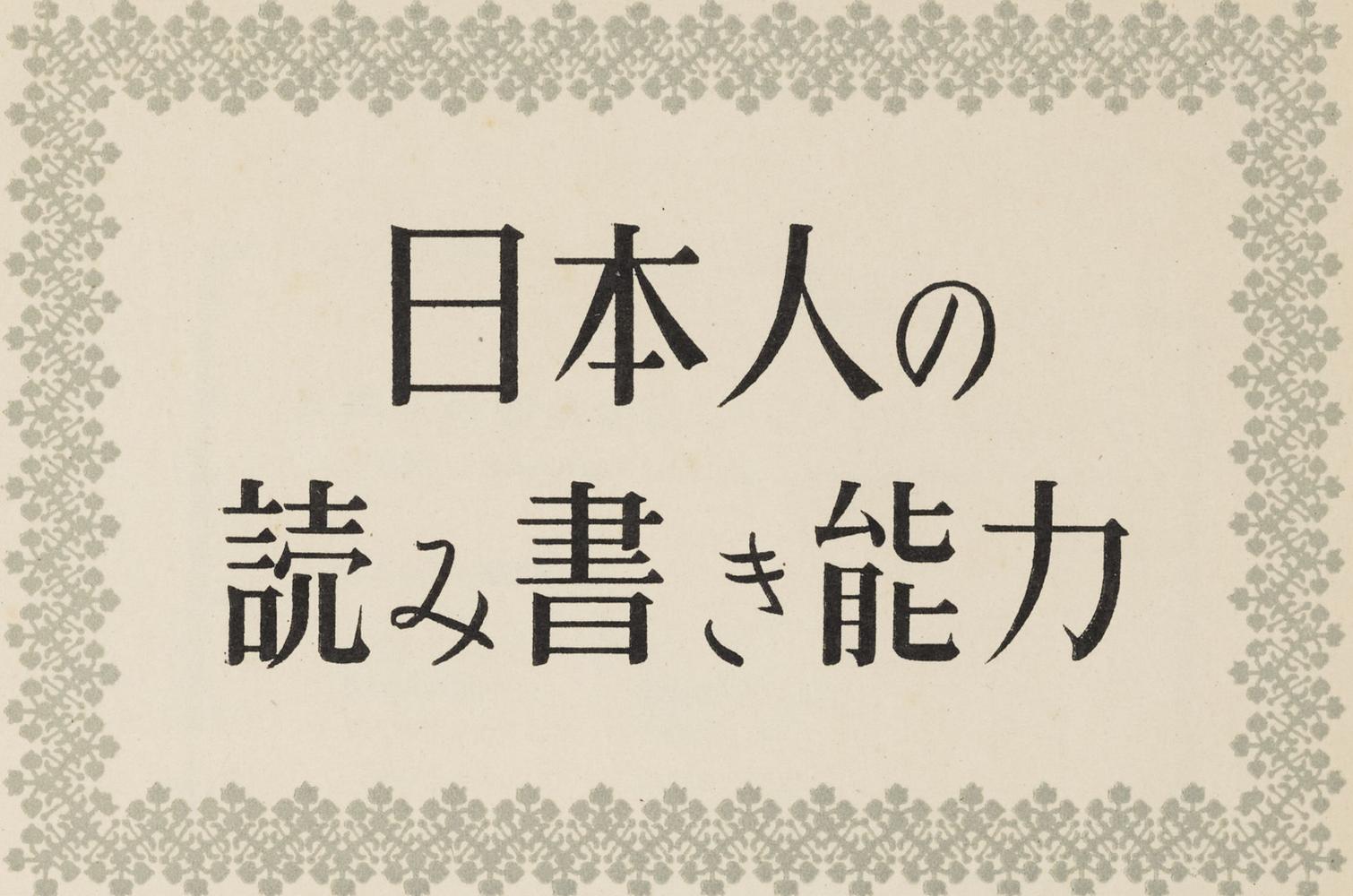
国立国語研究所



1001157674

国語
日本
東京
3261-





日本人の
読み書き能力

東京大学出版部

日本人の読み書き能力

を讀む人のために

この調査の全体について、しかも詳細に知りたいと思う人は、この本をはじめから終りまでこの順序に読むことが必要である。しかし、すべての人にそういう読み方が効果的であるとは限らない。なにしろ、この報告書はきわめて細かいところまで記述しており、その上ずいぶん大部なものになつていたので、専門ないし関心の違いによつて集約的に読むこともおすすめしたい。

まず、ぜひ読んでいただきたいのは、調査の目的(目次00, 1—3ペ)、きまつたテスト問題(312.0, 134ペ)、結果の記述(\$6, 324—368ペ)、結論(\$9, 425—429ペ)、さらに、調査の計画(\$1, 13—25ペ)、教示指針(313, 134—140ペ)、実施の計画(40, 231—232ペ)である。この部分を読まないで他の部分だけを読むのは、この調査に関する理解をさまたげることはあつても助けることはないであろう。

さて、言語について関心を持つてゐる人には、上にあげた部分のほか、特に30, 31, 523が興味をひくであろう。教育に関係のある人には、上にあげた部分のほか、特に01, 312.1, 7が参考になるであろう。世論調査などの統計調査にたずさわる人には、上にあげた部分のほか、2, 32, 4, 50, 51, 8が必要であろう。テストに興味のある人には、上にあげた部分のほか、31, 32, 52, 7が役立つであろう。なお、その他の専門家は目次によつて適宜読む箇所を選んでほしい。

巻末の図と表とは、さらに分析を進める人および他の資料と比較しようとする人にとつて得がたい資料である。いろいろな方面から利用していただきたい。

(B5判 750頁・定價1800円 千80円)

東京

東京都
本富
東京

郵便はがき

料金先拂

は 版 担
税 出 負
部 当 部

日本人の読み書き能力の理解のために

日本人の國語生活

教育研究所員 石黒 修 著

能力調査の専門委員長であり、教育研究所國語研究室の主任である著者が、國語改革、國語教育の基本課題を平明に敘した教育者必携の書であるとともに一般教養として、常識として備えるべき見解を明らかにしている。

(B6・260頁 定價200円)

学力検査と知能検査

教育研究所員 久保 舜一 著

教育心理學の實際家として教育方法を研究する著者が、サムリック調査方法を用いて、小学校上級中学にわたる、國語、算數能力を檢定し、更に教育環境との相関を解明した劃期的な書であり、読み書き能力調査中の學校調査に大きな関連がある。

(B5・180頁 定價250円)

サムリックはどう行ふべきか

統計數理研究所員 林知巳 著

確率論より説き起し、母集團、標本の定義を明らかにし、一々實例証明を示して、層化無作為標本抽出法の実際使用を社會、教育、心理、言語等あらゆる分野につき懇切に指導したもので實際家待望の書である。

(A5・403頁 予價400円)

推計學への道

理學博士 増山元三 校訂

初版より爆發的な歡迎をうけた好著である。増山博士の東大における講義をもとにし、受講者がまよめあげ、難解といわれる推計學最新の全貌を平明に敘したものである。

(A5・320頁 定價320円)

郵税 各册30円

東京・本郷局 東京大学出版部 振替東京59964

教育心理學の實際家として教育方法を研究する著者が、サムリン

学力検査と知能検査

教育研究所員 久保舜一著

能力調査の専門委員長であり、教育研究所國語研究室の主任である著者が、國語改革、國語教育の基本課題を平明に敘した教育者必携の書であるとともに一般教養として、常識として備えるべき見解を明らかにしている。
(B6・260頁 定價200円)

日本人の國語生活

教育研究所員 石黒修著

日本人の読み書き能力の理解のために

国語
日本
東京
3261-

郵便はがき

料 金 先 拂
部 当 郵
負 出 税
担 版 は

東京都文京区
本富士町一
東京大学内

東京大学出版部

調査室行

御住所・御芳名

御年令

御職業・勤務先	最後の学校
	御専門

御講読の新聞・雑誌名

お買上書店名

お買求めの日	お読みになった日
--------	----------

今まで当出版部へ読者カードをお返しになつた事がありますか
有 否

印刷：凸版板橋工場
製本：矢島製本所

この本をお求めになつた動機

① 当部御案内 ② 題名にひかれて

③ 人にすゝめられて ④ 書店で見て

⑤ 書評をよんで ⑥ 広告で見て

この本の取扱つてゐることについて

① わかりよかつた ② むつかしすぎる ③ 冗長である

④ 面白くない ⑤ 専門にすぎる

この本をお読みになつた動機

① 統計学の研究 ④ 学校の講義のため

② 言語学、社会学の研究 ⑤ 仕事に利用するため

③ 教育の研究のため ⑥ 興味があるから

この本についての御感想

① 内容について

② 書き方について

③ 体裁について

④ 値段について

⑤ この本をどういふ人におすすすめになりますか

今後御希望の書籍について

まことに御手数ですが以上各々御記入の上御返送下さい。長く保存して今後新刊目録、TUP 通信をお送りします。

④値段について

③体裁について

②書き方について

①内容について

この本についての御感想

- ①統計学の研究
- ②言語学，社会学の研究
- ③仕事に利用するため
- ④学校の講義のため
- ⑤教育の研究のため
- ⑥興味があるから

この本をお読みになつた動機

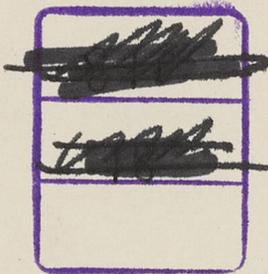
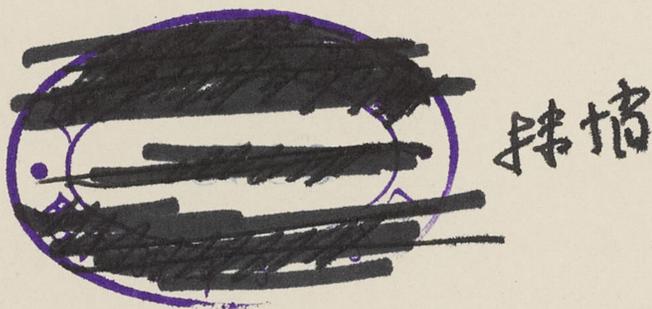
- ④面白くない
- ⑤専門にすぎる
- ①わかりよかつた
- ②むつかしすぎる
- ③冗長である

この本の取扱つてゐることについて

- ⑤書評をよんで
- ③人にすすめられて
- ④書店で見て
- ②題名にひかれて
- ①当部御案内
- ⑥廣告で見て

この本をお求めになつた動機

初版 1951 年 4 月



印刷：凸版板橋工場
製本：矢島製本所

まえがき

- 1 文は原則として当用漢字とその音訓表、および現代かなづかいによった。ローマ字のつづりは訓令式によった。
- 2 番号のつけかたは、章節、図表については十進法によった。そのため、一般的とはいえない0から番号がはじまる。章節の名は、たとえば、§001, §701.3はそれぞれ、レイ-レイ-イチ、ナナ(シチ)-レイ-イチ-テン-サンなどと読まれたい。
- 3 術語には、かなり大膽に、のぞましいと思われるやさしい語を採用したものがある。この結果、むずかしい語のなかに不釣合にやさしい語が入っていると思われるところがある。しかし、これは程度の差はあれ、どの文にもあることである。このようなことから、日本語の文章語はだんだんとやさしくなるであろう。
- 4 表や図の目次はそれぞれのはじめにある。その目次ではイタリックで、その表や図のあるページを示すとともに、右のほうに、本文でのその表や図についての記述のあるページを示すことにした。
- 5 序にもあるとおり、表や図の大部は福永昭氏の手をわずらわし、ごく少部の作製には満田新一郎、堤光臣、野元菊雄の諸専門員が加わった。
- 6 原稿やゲラ刷に眼をとおされて御注意を乞うたのはつぎのかたがたである。
CIE 顧問齋藤襄治氏、CIE 堤光臣、統計数理研究所所員西平重喜氏、同石田正次、国立国語研究所所員柴田武、同北村甫。(順不同、専門員は敬称略)
- 7 整理、校正などに CIE 野元菊雄があたることができたことを、CIE 当局に感謝する。
- 8 なお、この本ができあがるまでには、印刷にかかってからさえ1カ年の長い月日を経たために、はじめのころ組んだ活字は旧字体となっている。たとえば、述と述などが入りまじっているところがある。これは過渡期の現象としてお許しいただきたい。

序 文

これは本委員会が 1948 年（昭和 23 年）8 月におこなった日本人の読み書き能力調査に関する全般をまとめたものである。この調査は、日本ではもちろん世界でも類のない大がかりなもので、特に各方面の専門家の協力による共同調査、最近の統計学をもちいた科学的調査として、日本で最初のものである。これによって国語国字問題はもちろん国語政策ないしは文化政策に役立つ基礎的な資料を得ることができたと思う。

今にしてふりかえてみると、たりなかったところ、こうした方がよかったと思う点もないではないが、委員の助言のもとに、専門委員ならびに助手が、半年間の準備と、1 年余の整理、分析とに、文字通り寝食を忘れてあたり、その結果まとまったのが本書である。

しかしながら、この調査の全般にわたってうけた連合軍総司令部民間情報教育部（CI & E）の協力と、文部省ならびに教育研修所（現在の国立教育研究所）の援助とは大きい。さらに、この調査のためにつくされた臨時調査員、調査関係者、被調査者ならびに新聞、放送関係方面の協力は忘れられない。ここにこれらの方方に対してあつく感謝の意を表わしたい。

これをまとめることについては、委員会として報告書を出版すべきであるが、その資料がぼう大なのと、費用がないため、将来にその機会をまつことにして、下記の編集出版委員の責任において、根本的にあまり重要でないと思われる一部の資料をのぞいて、これを公開することをゆだねた。

出版については、さいわい、東京大学出版部が犠牲的にこれを引受けてくれることになったが、編集出版委員はいずれも公職にあって、公務の余暇に原稿を作り上げたため遅延をかさね、しかも資料を少しでも多く入れたいというので、予定のページも 2 倍以上になるという有様で、出版部に二重三重の迷惑をかけることになったが、ようやく

ここに出版されるに至ったことは、まことに感謝感激にたえないところである。あわせて面倒な組を引受けてくれた印刷所に対しても感謝の意を表す。

さらに、野元菊雄が残務整理委員として、編集、校正、索引の作成などの実務にあたってくれたことを特記して感謝する次第である。なお、図表は福永昭君の手をわずらわしたものであることを附記して感謝したい。

1950年 10 月 30 日

読み書き能力調査委員会

委員長 務 台 理 作

本書の編集出版委員（五十音順）

石 黒 修（国立教育研究所）

柴 田 武（国立国語研究所）

島 津 一 夫（国立教育研究所）

野 元 菊 雄（C I & E）

林 知 己 夫（統計数理研究所）

MESSAGE

Literacy Chôsa sôgô Hôkokukai wo mae ni shite natsukashii Nihon wo sara-nakereba naranakatta koto wo watakushi wa nani yori zannen ni omoimasu. Ima watakushi no me niwa kakô ichinen han ni watatte kono igi fukai keikaku ni sankā shi sorezore no semmon no bun'ya ni oite kagayakashii gyôseki wo ageta kata-gata, mata, aruiwa chokusetsu sore ni kuwawaranakutomo sono mokuteki tassei no tame ni hijôna dôjô to kanshin wo yose, kotogoto ni gekirei to shien wo oshimanakatta minasama no sugata ga ichiichi ukande mairimasu.

Kono chôsa ga sono mokuteki ni oite mo, mata, kibo, hôhō ni oite mo mattaku kakkiteki na mono de atta to yu koto ga ima ni shite ôkina kakushin wo motte môsu kot oga dekimasu. Sakunen no hajime kono keikaku ga taterareta toki, watakushi wa tôtei konnichi no kono ôkina seika wo yumemiru koto wa dekimasen deshita. Hitoeni minasama no kenshinteki na doryoku no tamamono de atta to fukaku kansha itashimasu. Soshite kono chôsa no kekka ga kongo naigai no kakushu chôsa ni kiyo suru koto dai de ari, mata Nihon ga chokumen shite iru samazamana mondai ni taishite aru shisa wo ataeru mono de aru koto wo shinjimasu.

Kagakuteki na chôsa ni atatte wa watakushidomo wa taezu jûbunna hansei wo motte sono hôhō no datôsei wo kentô itasaneba narimasen ga, mata dôji ni, hitotabi shikarubeki sôsa wo hete aru kekka wo eta naraba, watakushidomo wa soko ni shimesareta genshukuna jijitsu wo soochokuni, yugameru koto naku mitomeru yûki to jishin ga nakute wa narimasen.

Kono chôsa ni atatte watakushidomo wa kimmitsuna kyôryoku ni yoru

MESSAGE

kenkyû to yu mono ga ikani ôkina seika wo motarasu ka to iu koto wo oshieraremashita. Watakushi kojîn wa mattaku sasayakana doryoku shika itashimasen deshita. Tada kono iôna keikaku ga minasama ya watakushi wo fukumete, Nihon to iu ikutano kanôsei no aru jiban ni oite koredake no seikô wo osameta koto wa itsuni minasama no neshinna doryoku ni yoru mono de aru koto wa fukaku mune ni kizande orimasu. Makotoni rikai to shinrai to sonkei koso subeteno mono wo musubu mono de aru to zonzimasu.

Owari ni nozomi, umi no kanata yori harukani minasama no gotakô wo inoru to tomo ni, saikai no hi no ichinichi mo hayaku kuru yôni to negau mono de arimasu.

1949 nen, 7 gatsu

John C. Pelzel

目 次

§ 0 調査の目的と今までの調査

000	調査の目的	1
001	調査を必要とする理由	1
002	調査の結果は何をあたえるか	2
003	Literacy の概念	3
003.0	Literacy の定義	3
003.1	Literacy と Mass Communication	3
01	今までの調査	4
010	諸外国での調査	4
010.0	アメリカ合衆国での調査	4
010.1	ギリシャでの調査	5
011	日本での調査	6
011.0	壮丁教育調査	7
011.1	カナモジカイの調査	10
011.2	東京市の読方教育測定	12

§ 1 調査の計画

10	問題の設定	13
100	読み書き能力に影響を及ぼす要因	13
101	読み書き能力を調べる手がかり	14
11	調査の設計	16
110	Mass Communication Media の準備	16
111	テスト資料の構成	18

総目次

112	調査の方法	18
113	Sampling	20
113.0	あらし	20
113.1	読み書き能力に影響を及ぼす要因の決定	21
113.2	層別の準備	24
113.3	Sample の決定とその割当方法	25

§ 2 調査の機構

20	機構と要員	26
200	読み書き能力調査の要員	28
201	補助員	32
202	臨時委員	32
203	事務局員	32
204	CIE の関係者	32
205	I. B. M. の関係者	33
21	任務	33
210	あたえられた任務	33
211	任務の遂行	34

§ 3 調査の準備

30	文字言語資料の準備	35
300	Mass Communication Media の分析	35
301	新聞語の調査	37
301.0	新聞の Sampling	37
301.1	新聞紙の Sampling	39
301.2	言語単位のと리카た	40
301.3	新聞記事の分類	44
301.4	度数表と Key-word の選び出し	48
31	テスト資料の構成	64
310	あらし	64
311	問題ごとの形式, 基準および出所など	70
311.0	問題 (一) について	70
311.1	問題 (二) について	76

311.2	問題(三)について	80
311.3	問題(四)について	91
311.4	問題(五)について	99
311.5	問題(六)について	105
311.6	問題(七)について	114
311.7	問題(八)について	123
311.8	テスト資料としての固有名詞の調査について	131
312.0	きまったテスト問題	134
312.1	テスト問題に使った語と小学校の国語教科書	134
313	教示指針	134
314	採点基準	141
314.0	一般	141
314.1	漢字の書取りの採点のためにした調査	144
32	Sampling	146
320	あらまし	146
321	準備調査	149
321.0	小田原市での調査	149
321.00	あらまし	149
321.01	調査の実施	151
321.02	調査での出欠のありさま	155
321.03	調査でわかった特殊資料	166
321.04	調査の結果のとり扱いかた	168
321.05	調査の結果と社会的環境, 個人的経歴との関係	170
321.06	その他のおもな分析	177
321.1	埼玉県比企郡野本村での調査	184
321.10	あらまし	184
321.11	調査の実施	185
321.12	調査での出欠のありさま	186
321.13	調査でわかった特殊資料	187
321.14	調査の結果	187
321.15	その他のおもな分析	188
321.2	千葉県君津郡長浦村での調査	196
321.20	あらまし	196

総目次

321.21	調査の実施	197
321.22	調査での出欠のありさま	197
321.23	調査でわかった特殊資料	198
321.24	調査の結果と社会的環境、個人的経歴との関係	198
322	準備調査で得られたおもな結果	199
322.0	調査実施の方法に関するもの	199
322.1	Sampling の計画に関するもの	200
323	層別法	203
323.0	あらまし	203
323.1	第1次(区市郡)の層別	206
323.2	区市郡層別の実際	211
323.3	区市郡の Sampling	214
323.4	郡のなかの層別および Sampling	215
324	Sample 数の決定とその割当	216
324.0	Sample 総数のおおざっぱな決定	216
324.1	層別と Sample の割当	218
324.2	第2次 Sampling の影響	221
324.3	第2次(下位)層別での Sample の割当	226
324.4	Sample 数の最後の決定	228
324.5	Sample の実際の割当および Sampling に使う数字	228

§4 調査の実施

40	実施の計画	231
41	実施の準備	233
410	調査者のための解説書	234
411	調査書類の印刷と発送	252
412	調査者の指導	252
42	宣伝	253
420	中央の宣伝	254
420.0	新聞による宣伝	254
420.1	ラジオによる宣伝	255
420.2	映画による宣伝	255
421	地方の宣伝	255

43 実施	256
430 Sampling	256
431 調査	256
431.0 Sample の呼び出しと受付方法	256
431.1 調査の実施	257
44 書類の回収	258
45 実施に関する分析	259
450 実施状況の分析	259
450.0 視察報告にもとづいて	259
450.1 現地の調査者の報告によって	262
451 欠席者の分析	273
46 問題のもれ	283

§5 結果の検定

50 Sample の検定	286
500 Sample さんと母集団との比較	286
501 本調査と再調査との比較	287
501.0 再調査の実施	287
501.1 比較分析の方法	290
501.2 分析の結果	292
501.20 東京都八つの区について	292
501.21 関東3地点について	297
501.22 東北4地点と大垣市とについて	299
501.3 本調査と再調査との結果から	301
501.4 横須賀の再調査	302
51 層別の効果	305
52 テスト資料の吟味テスト	308
520 あらまし	308
521 漢字、語の意味に関する吟味テスト	308
521.0 目的	308
521.1 テストの実施	308
521.10 調査地点の決定	308
521.11 層別および Sampling	308

総目次

521.12	Sample の呼び出しおよび会場	309
521.13	出席者の分析	310
521.2	問題（四）に関する吟味	310
521.20	目的	310
521.21	テスト資料の構成	310
521.22	テストの方法および形式	310
521.23	テスト問題	310
521.24	教示指針	310
521.25	結果	311
521.3	問題（五）に関する吟味	312
521.30	目的	312
521.31	テスト資料の構成	312
521.32	テストの方法および形式	313
521.33	テスト問題	313
521.34	結果	313
521.4	問題（六）、（七）に関する吟味	314
521.40	目的	314
521.41	テスト資料の構成	314
521.42	問題のあたえかたおよび時間	315
521.43	テスト問題	315
521.44	結果	315
522	センテンス・パラグラフに関する問題の吟味	316
522.0	目的	316
522.1	テストの実施	316
522.2	問題（八）の形式に関する吟味	316
522.3	問題（八）の問の内容に関する吟味	318
522.4	問題（八）の問題文に関する吟味	320
523	テスト資料ぜんぱんに関する吟味調査	321
523.0	目的	321
523.1	文字生活の実態調査	321
523.10	調査事項	321
523.11	調査の実施	321
523.12	調査の結果	321

523.13 結果の考察 323

§ 6 結果の記述

60 あらまし 324

600 テストの性質 328

601 総得点の分布構造 328

602 読み書き能力の極限 332

602.0 Literacy ある者の構造 332

602.1 文盲の構造 335

61 読み書き能力を調べる手がかり 336

610 手がかりの性質 336

611 手がかりのあいだの関係 337

62 読み書き能力に影響を及ぼす要因 339

620 言語的要因 339

620.0 言語的要因を使うことができる能力 339

620.1 教育的、地域的要因と言語的要因を使うことのできる能力との相関関係 . . . 340

621 教育的要因 340

621.0 学歴と得点との相関関係 340

621.1 文化的要因と教育的要因との相関関係 341

622 文化的要因 341

622.0 地 域 341

622.1 市部・郡部 345

622.2 性 348

622.3 年 齢 349

622.4 産業・職業 351

622.5 新聞を読むこと 353

622.6 文化的要因のあいだの関係 353

63 読み書き能力を測定する要因 354

630 個人の読み書き能力を測定する要因 354

631 地点の読み書き能力を測定する要因 358

64 反応分析 359

65 各種の図表 364

650 Sample さんの構成とその平均点との表 364

総目次

651 その他の図表 368

§7 学校調査

70 目的 369

71 Sampling 370

710 県の層別 370

711 Sample の割当 371

712 各県での Sampling 372

712.0 東京都での Sampling 372

712.1 長野県での Sampling 374

712.2 香川県での Sampling 375

713 三つの都県に割当てられた Sample 数 376

714 学校での Sampling のしかた 377

72 国語学力テストの構成 378

720 テスト構成のための一般的原則 378

721 ひとつひとつの問題の構成 380

722 準備テスト 383

723 できあがった問題 383

73 実施 383

730 調査の実施 383

731 実施の方法 384

732 環境調査と Sample の個人調査 385

733 採点方法 385

74 結果 386

740 読み書き能力調査の結果 386

740.0 得点 386

740.1 一般人との比較 388

741 国語学力テストの結果 389

741.0 得点 389

741.1 問題についての結果 389

741.2 Strata のあいだでの結果の比較 390

741.3 性別による差 391

742 読み書き能力調査と国語学力テストとの結果の比較 392

75	テスト問題の検定	392
750	あらまし	392
751	妥当性の検定	393
752	適応性の検定	395
753	信頼性の検定	396
754	検定の結論	401

§ 8 調査の運営

80	経過	402
800	専門員業務経過	402
800.0	一般経過	402
800.1	経過日曆 (附. アルバイト使用状況)	411
801	語集調査	414
802	採点と点数の記入	415
802.0	採点の経過	415
802.1	点数の記入と合計	416
81	計算の方法と運営	416
810	Coding	416
811	I. B. M. の集計表とその計算	418
811.0	I. B. M. の集計表	418
811.1	平均点と標準偏差との計算	422

§ 9 結論

90	結果の解釈	425
900	仮設の吟味	425
901	調査の結果は何をあたえたか	426
91	調査に対する反省	427
92	提案	429
	表	500
	図	700
	索引	900

目次

75 支那の税関手続

76 支那の税関手続

77 支那の税関手続

78 支那の税関手続

79 支那の税関手続

80 支那の税関手続

81 支那の税関手続

82 支那の税関手続

83 支那の税関手続

84 支那の税関手続

85 支那の税関手続

86 支那の税関手続

87 支那の税関手続

88 支那の税関手続

89 支那の税関手続

90 支那の税関手続

91 支那の税関手続

92 支那の税関手続

93 支那の税関手続

94 支那の税関手続

95 支那の税関手続

96 支那の税関手続

97 支那の税関手続

98 支那の税関手続

99 支那の税関手続

100 支那の税関手続

101 支那の税関手続

102 支那の税関手続

103 支那の税関手続

104 支那の税関手続

105 支那の税関手続

106 支那の税関手続

107 支那の税関手続

108 支那の税関手続

109 支那の税関手続

110 支那の税関手続